

# 活動レポート

## ななはた探訪会

今回は、冊子や紙芝居の制作等を通して四熊地区の歴史・文化の伝承に取り組んでいるグループをご紹介します。



会長 大田美和子さん

### 1. 会を発足した理由やきっかけを教えてください。

事の発端は、2006年に地域の俳句会で「最近では地域の歴史や文化が風化している」という話題が挙がったことでした。そこで、地域の歴史や文化を若い世代に継承しよう、という思いを持つ有志が集まり、まずは郷土誌の作成を目標として会を結成することになりました。

会名の由来ですが、「ななはた」とは四熊地区の別名で、四熊地区を構成する井谷、庄原、里四熊、新畑、松兼、奥四熊、向山の「7つの地域の田畑」という意味があります。そして、その「ななはた」の史跡を探訪し、地域の歴史や文化を後世に伝えていこうとしたことから「ななはた探訪会」という会名に決定しました。

### 2. 普段の活動について教えてください。

月に1回、四熊公民館にて会員と歴史に関する意見交換等を行っています。

また、会報を毎月発行し、会からのお知らせだけでなく四熊地区の最新情報を発信しています。会報は文字より写真が沢山ある方が興味を持ってもらいやすいだろうと思い、今のような写真中心の形にしました。会報作成は私の担当なので、毎日のように四熊中を動き回り、日々沢山の写真を撮っています。

この他、地域の行事に積極的に参加して紙芝居の上演を行ったり、必要に応じて不定期で史跡探訪を行ったりしています。

### 4. 2008年に地域の史跡や文化をまとめた冊子「周防小富士ななはた」を発行されていますね。

会の設立以降、会員と共に地域の史跡探訪を続け、写真撮影や史跡の説明文の作成に取り組み、設立から1年半後の2008年1月にこの冊子が完成しました。この冊子は500部ほど発行し、学校、図書館、そして自治会を通して地区の全住民に配布しました。史跡を巡る中で分からない点が出てきたときは、図書館に行って資料を探したり、地域の方々へ聞き取りを行ったりしました。長年四熊に住んでいても知らないことが沢山あるということに驚きましたが、多くの再発見ができたとともに、それを冊子を通して皆さまにお伝えすることができて良かったと思います。

### 3. これまでに沢山の紙芝居を制作し、披露されていますね。

四熊に伝わる昔話をもとに紙芝居を作り、地域の行事や学校、老人ホーム等にて上演しています。設立当初は郷土誌の作成を目標とし、史跡探訪を主な活動として行っていた当会ですが、2009年からはより多くの方に四熊のことを知ってもらいたいという思いから紙芝居の制作を始め、これまでに15作を制作しました。昔話は、文章としての記録が残っていればそれをもとに脚本を作りますが、口承でしか伝わっていないものに関しては地域のお年寄りに聞き取りを行っています。

紙芝居の制作を始めて良かったと思うことは、県内の紙芝居団体との交流の輪が広がったことや、上演の際に皆さまから直接反応をいただけることです。活動を通して様々な方と交流できることに対して嬉しく思いますし、交流によって常に元気を貰えていると感じます。



紙芝居「森の卓球大会」上演の様子。動物が出てくる作品は子どもたちが喜んでくれます。

## 5. 2013年には四熊の88か所の霊場を全て紹介する「四熊八十八ヶ所霊場めぐり」を発行されていますね。

88か所については「周防小富士ななはた」でも取り上げましたが、カラーでより詳しいことを記載した本を作ればお遍路にいらっしゃる方々のためになるのではないかと考えたのです。この冊子は200部ほど発行し、年に2回行われる四熊の88か所の大祭にて販売しました。販売は既に終了していますが、現在でもこの冊子に関する問合せをいただくことがあり、ありがたく感じています。

## 7. 今後取り組みたいことを教えてください。

まず、来年には明治時代の四熊小学校の教員であった水井文吉先生の生誕150周年記念イベントの開催を予定しており、水井文吉先生に関する記念紙芝居を制作したいと考えています。

また、先に述べた通り、今後の四熊地区では若い方や地域外の方を呼び込むことが必要であると感じています。そこで当会では今後、若い方や地域外の方を呼び込む力を持つであろう“音楽”や“スポーツ”を軸にした交流にも力を入れてゆきたいと考えています。まず、音楽に関しては先に述べた通り「四熊ななはた音頭」を通じた交流を行っており、今後はこの音頭を地域により浸透させてゆきたいと思っています。そして、スポーツに関しては現在当会の派生グループとして「ななはた卓球クラブ」というグループを結成し、卓球をしながら地域内外の方との交流を深めており、今後はこの活動にもより多くの方を呼び込みたいと考えています。

私たちの役目には、歴史や文化の伝承だけでなく、人との交流の促進も含まれていると考えています。歴史を軸に活動してきた当会ですが、今後は“音楽”や“スポーツ”というこれまでとは異なる観点からの活動を通して新たな交流の輪を広げてゆけたら、と思います。

## 6. 昨年、地域の音頭「四熊ななはた音頭」を制作されたようですね。

今後の四熊地区ではゴーストタウン化の阻止のために若い方や地域外の方を呼び込む必要があります、そのためには音楽を通じた交流が効果的なのではないかと考えたのです。そこで、私が個人的に親交のある岩国市のシンガーソングライター毛利治郎さんに作詞作曲を依頼し、2015年にこの音頭が完成しました。現在では四熊地区の盆踊り等でも使用されています。

初披露の場となった2015年11月のふるさと四熊ふれあい祭りにて住民の方々と一緒に踊ることができたことは、この10年の活動の中で一番嬉しかったことです。まさに“音楽で一つになる”という経験ができました。

## 8. 皆さんに伝えたいことをどうぞ！

四熊には「やまぐちの棚田20選」に選定された棚田を始めとする、美しい自然や史跡があります。毎年春と秋には四熊88か所の大祭が開催され、6月にはあじさい祭り、8月には盆踊り大会、11月にはふるさと四熊ふれあい祭り等、地域の歴史や自然を味わえる行事が多く開催されています。四熊は多くの魅力を持つ地域です。ぜひ、皆さまに行事にお越しいただき、四熊の魅力に触れていただければと思います。



今年の1月にシティケープル周南から取材を受け、「おっちゃん」から「活気賞」をいただきました。



「四熊」の地名の由来とも言われる、東方征伐の際に四熊ヶ岳を登ろうとした神武天皇を迎えたとされる4匹の熊を模した看板と共に記念撮影。

◆ななはた探訪会◆

TEL・Fax 0834-62-5376(大田)

メール [omiwako@m2.ccsnet.ne.jp](mailto:omiwako@m2.ccsnet.ne.jp)